

## 金高州吾、船木淳悟、佐藤厚子の3技官

### 「平成8年度土木学会年次学術講演会優秀講演者」として表彰される

平成8年9月17日～19日、名古屋市名城大学天白キャンパスにおいて開催された第51回土木学会年次学術講演会において、当所河川研究室金高州吾技官、同船木淳悟主任研究員、土質基礎研究室佐藤厚子研究員の3氏が優秀講演者として表彰された。

この表彰制度は平成7年度から設けられ、論文・講演内容の向上や全国大会の活性化などを目的として、土木学会全国大会で優れた講演を行った若手研究者、技術者を表彰するものである。表彰者数は部門のセッション数の2分の1以内に限定して選考され、講演部門数8、全講演者数4,137名の中から265名が表彰された。表彰者の氏名は土木学会誌1月号（別冊：平成8年度全国大会報告）誌上において掲載された。

表彰を受けた3氏の講演タイトルと概要は以下のとおりである。

#### 金高州吾：網走湖湖出口付近における塩水侵入現象

近年、汽水湖である網走湖において塩淡水境界層の上昇による青潮の発生が頻発している。湖内の塩水をコントロールする計画を立案するためには、湖出口における塩水の侵入のメカニズムを詳細に把握する必要がある。本研究では、特に塩水侵入現象が顕著に現れる大潮時においてADC Pおよび水中投入式塩分計を用いた詳細観測を行い、その過程を明らかにすることができた。

#### 船木淳悟：河川改修による魚類生息環境の変化に関する研究

河川の生態系に配慮した河川改修が数多く試みられている中、その効果を適正に評価する手法の開発が求められている。本研究は、河川改修工事前後において魚類の捕獲調査と流速調査、底生動物調査を行い、魚類の生息数の変化との関連性を検討した。その結果、魚類の生息数の増減が典型的な2つの河川事例において、施工前後における流速環境の変化が魚類の生息数と底生動物の密度および種構成に影響を与えている可能性を示すことができた。

#### 佐藤厚子：高分子吸収材による緑化工法について

降雨による自然灌水のない箇所を緑化するためには、定期的に水分補給しなければならないので、一般道路の緑化と比較して経費が大きくなる。そこで、これに対処する方法の一つとして高分子吸収材を用いて土壌の保水能力を高める工法を取り上げ、この工法の有効性について検討した。その結果、水分補給間隔により目標緑化基準を達成できる期間をある程度明らかにできた。また、春先の雪解け水が有効に作用して、水分を補給しなくても時間をかければ目標緑化基準を満足できることもわかった。